

61

海外の医学史博物館の活動

——台湾の高雄醫學大學「高醫校史暨醫學人文館」の展示方針——

蕭 惻惻 (Hsiao Lily)¹⁾, 福永 肇²⁾, 劉 景寬 (Liu Ching-Kuan)³⁾¹⁾ 渋谷国際皮膚科医院, ²⁾ 埼玉学園大学, ³⁾ 國立中山大學/元高雄醫學大學/臺灣醫學史學會理事長

【研究の背景】 全国各地に医学系博物館がある。各館とも運営・資料収集の目的, 焦点を絞り, 制約ある予算, スペースの下で工夫を凝らした展示を行っている。第119回日本医史学会総会・学術大会(鹿児島)では医薬系博物館約200館の整理分類が報告されている(野尻佳与子『日本における医薬系博物館』)。落合知子編『医歯薬学系博物館事典』(雄山閣, 2021年)では212の博物館と薬用植物園が取り上げられている。西欧には充実した医学史博物館が多数あるようだ(石田純郎著『ヨーロッパ 医科学史散歩』, 考古堂, 1996年)。アジアにも規模の大きい医学史博物館が多くある。しかし日本でそれらを知る人は多くない。

【目的と方法】 研究の目的はアジアの医学史博物館の歴史や運営形態, 展示内容を把握し智見を得ることにある。研究対象として台湾の「高雄醫學大學 高醫校史暨醫學人文館」(暨=&)を選択し, 運営形態や展示内容等の調査を行った。日本語での台湾医学史の文献はまだないことから, 最初に台湾語文献および台湾の医師や臺灣醫學史學會の会員からの教授を通じて, 台湾の医学・医療の流れと台湾医学史体系を整理し, 把握した。次に高雄醫學大學 高醫校史暨醫學人文館で学芸員のアシストの下, 展示品や解説文を閲覧。台湾の他の医学史博物館(臺灣大學醫學人文博物館, 彰化基督教醫院院史文物館など)も参考にして, 台湾の医学史の展示方法やその内容を調査検証した。最後に博物館創設当時の責任者から設立目的と方針を聞き取った。

【結果】 台湾では「高雄市政府 臺灣醫療史料中心」(2003年開館)が台湾最初の医学史展示を行っていた。このセンターが2014年に収蔵物を高雄醫學大學(1954年創設)に譲渡。大学は既存の校史館と統合した「高醫校史暨醫學人文館」をキャンパスの中心に新たに開館し, 譲受した収蔵物を保管・展示した。この博物館の目的は台湾医学史の史料収集・分類・保存・研究・継承そして学生・市民への情報提供と歴史教育。展示は2部構成で, 1階フロアが高雄の医学史展示, 2階フロアが南台湾での熱帯医学, 看護・産婆, 歯科, 公衆衛生, 薬学, 医療機器材料の歴史を展示。加えて台湾の医学・医療・保健に貢献あった人々の紹介と顕彰を行っている。

調査結果から, この博物館の特徴は以下の(1)(2)の2点と言える。(1)博物館の基盤に米国の近代医学教育に関するFlexner Report(1910年)の提案を織り込んでいること。そこから「人文」を展示の軸足に据え, サイエンスとしての医学史だけではなく, 台湾の人々の文化・文明・営みと医学・医療の関りとの歴史も博物館の対象としている。(2)南台湾地域の医学史を対象とした展示方針であること。具体的には, ①Dr. Patrick Mansonが19世紀中旬, 高雄にて世界で初めて熱帯病研究に着手した史実及び高雄醫學大學での熱帯病研究を, 学生や市民に紹介。②近代西洋医学の高雄への上陸という歴史紹介に, 当時の病院「慕徳醫院(1881年開設)」を博物館内に実物大で再現展示(器具は現物)。

【考察・結論】 「医学」と「人文」の双方の視点を取り入れたユニークな医学史博物館といえる。南台湾の医学を物語る史料展示を一つひとつ見ていくと, 医療への取組の流れと共に, 今までにどのような医療が台湾の人々に提供されてきたのかが良く理解できる。高雄は台湾島に西洋医学が上陸した地域で, また世界の熱帯病研究の濫觴の地でもある。博物館は当時の病院院内を実物大にて展示し, 観覧者を19世紀後半の高雄の医療現場に連れていく。南台湾の医学史の研究と共に, 歴史教育を行う博物館としても運営しており学生や市民の参観者数は多い。医学教育や歴史啓発の方法を考えるうえで大変参考になる医学史博物館といえる。日本の医学施設, 関連学会, 医療関連団体へは, 人的交流やMOU(基本合意契約書)などを通じて, 外国の医学史博物館の機能や人材, 所蔵資料を活かした共同研究や学術交流の推進を期待したい。